

おあしす

発行責任者 青戸地区まちづくり懇談会
 会長 上原 鈴枝
 編集 青戸地区まちづくり懇談会
 広報部
 事務局 青戸地区センター☎(3601)7441
 青戸地区世帯・人口 (令和8年1月現在)
 世帯 16,552 世帯/人口 30,731人
 本号の題字
 青戸第二公団住宅自治会
 会長 坂本 忠信さん 筆

地区センターまつりが 行われました

11月1日、2日の2日間にわたり、第27回青戸地区センターまつりが開催されました。当日は未明に僅かに雨が残ったものの、2日とも好天に恵まれ、昨年よりも多くの方が来所されました。

センターの前では地元和菓子店(団子、おにぎり等)と青少年育成青戸地区委員会の出店(焼きそば)がとても繁盛していました。

入口には地元の方が用意された菊の花が皆様を迎えます。

2階では青戸地区図書館により図書コーナーが設置され、年数は経ったものの魅力的な図書が多数並び、通りがかりの人が足を止めて手に取っていました。ロビーには地元の方による生け花展示があり、皆様の目を楽していました。

3階の大会議室では2団体(書道、パッチワーク)が丹精込めて準備した作品が多数展示され、人々が一つ一つの作品をじっくりと見られていました。

そして、4階ホールでは地域から14もの団体が参加され、ダンス(フラダンス、ベリーダンス)、囃子、民謡、おけさ、コーラス、仕舞、エイサー、カラオケ、フルート演奏、新日本舞踊、盆踊り等、熱の入った実演で日頃の練習の成果を存分に発揮されていました。客席には多くの方が来られ、各参加団体の演技に見入っていました。

更に、2日目の4階ホールでは「笑いヨガ」の講習が行われ、4階ロビーでは高齢者総合相談センター青戸による恒例の介護・健康相談コーナーが2日間にわたり設

置され、地域の皆様の健康増進に貢献することとなりました。

また、1階の福祉施設「青戸しようぶ」にて「第16回もみじまつり」が同日開催され、喫茶、軽食の他、クッキーやポップコーンも販売されていました。また、ゲームコーナーやビーズ制作も行われていました。

今回は青戸小学校の運動会と重なってしまったため、子供たちの出演がなかったことが少し残念でした。次回はまた、元気な子どもたちの出演も期待しております。



アイリスほほえみの会 (青戸地区福祉活動委員会)

「アイリスほほえみの会」は、平成23年3月、地域に暮らす子どもから高齢者まですべての住民が地域のきずなでつながり、安心して暮らせるまちづくりを目指すことを目的に発足しました。

主な取り組みは、友だちづくりや外出のきっかけとしてもらうための年1回のイベントの実施、福祉情報の提供などです。令和3年度からは、より少人数でも開催ができるように、地区内をいくつかに分けて、それぞれの地域での班活動が始まりました。令和6年3月の「筑前琵琶弾き語り」、令和7年2月の「笑いは健康のもとⅢ」のイベントでは、それぞれ100名の参加があり大好評でした。



青戸地区 民生委員・児童委員

民生委員・児童委員は、厚生労働大臣から委嘱され、地域の中で福祉全般にわたり相談や支援を行っています。令和7年12月に一斉改選が行われました。青戸地区管内には、19人の民生委員・児童委員が委嘱されました。また、その中には2人の主任児童委員が配置され、児童問題を専門に活動しています。

民生委員の活動は、ひとり暮らしの高齢者の方などの悩み事や心配事の相談に応じたり、区や関係機関とのパイプ役や調整役を務めています。

自治会の行事や児童館まつりなどの手伝いを通して地域福祉の向上にも努めています。

これからも地域の皆様とともに、安全で安心できるまちづくりに取り組んでいきます。



氏名 主な担当地域

- | | |
|--------|---------|
| 嘉野 雅章 | 青戸二丁目 |
| 田中 清子 | 青戸三丁目 |
| 八木橋聡美 | 青戸三丁目 |
| 山崎亜弥子 | 青戸四丁目 |
| 野上 啓子 | 青戸三・四丁目 |
| 鷲巢 圭子 | 青戸三・四丁目 |
| 左近司孝子 | 青戸三・五丁目 |
| 太田 ルリ | 青戸五丁目 |
| 加賀野恵理子 | 青戸六丁目 |
| 木間 陽子 | 青戸七・八丁目 |
| 寺田 恵子 | 青戸七丁目 |
| 成田 直美 | 青戸八丁目 |
| 山本 吉彦 | 青戸六・七丁目 |
| 小林 隆猛 | 青戸八丁目 |
| 高橋不二子 | 白鳥三丁目 |
| 千野 裕子 | 白鳥四丁目 |
| 白井和喜恵 | 白鳥四丁目 |
| (欠員3名) | |

福田雅さんが瑞宝双光章を 受章されました

経歴
荒川第五・第一中学校校長
東京都中学校美術教育研究会 会長
全日本中学校長会 予算対策部長
東京都教育委員会 主任指導主事

主任児童委員
西田 知美
中野 恵子
ご相談を希望する方は、
区役所福祉管理課地域福祉係
(電話5654・8244)にご連絡くだ
さい。

青戸中学校 吹奏楽部

10月18日(土)の産業フェアにて、青戸中学校吹奏楽部による演奏が行われました。演奏した曲は「彼こそが海賊」「宇宙戦艦ヤマト」「鬼滅の刃メドレー」「愛は勝つ」アンコールに、「学園天国」です。名曲、ヒット曲が次々と演奏され、おおいに盛り上がりました。

2曲目と3曲目の間には部活動紹介をかねた部長インタビューがありました。

「みなさんに楽しんでいただけたら、心を込めて演奏します」という言葉通りに、会場にいた方々は楽しまれ、素晴らしい演奏だったと、惜しめない拍手が送られていました。

これからも吹奏楽部の活躍を期待しています。



まちあそび人生ゲームIN葛飾
青戸商店会連合会 会長 加藤裕章

11月9日(日) 第7回まちあそび人生ゲームが開催されました。朝からあいにくの雨。10時に修徳高校吹奏楽部の白い息遣いを感じる演奏で、花が咲くように大小の傘が、青戸平和公園を勢いよく出発しました。

地図を片手にルーレットの数字に従い細い道や、裏路地にある居酒屋や不動産屋等を探し求めます。子供にとっては、1人では行くことのない大人の世界。たかがルーレット。順番で今度は自分が回し、お宝をゲットできるか取られるか未知の世界。お店の人々や学生ボランティアとの出会いも楽しみです。日頃歩かない3・2キロの道のりもあつという間に青戸平和公園に到着。そこで待ち構える「人生最大の賭け」苦勞して集めたお宝を増やせるか、全て無くすかもこれまた人生。単純にサッカーボールを蹴りゴールに入れるだけ。緊張で5メートルの長さが10メートルに感じてしまう。成功すれば周りから歓喜の嵐。失敗すれば、子供にとって初めての試練。お金が無くなり、挑戦したことの後悔で大泣き。大人の「人生こんなものさ」との慰めに一切納得出来ません。担当者も今後の成長を祈るばかりです。

夜の食卓に会話の花を咲かせることを想像するだけで、実行委員も疲れがとれます。

駅前広場改装で人生ゲーム
青戸商店会連合会 会長 加藤裕章

令和3年2月21日、青木克徳区長に青戸商店会連合会、青戸自治町会、本田中原町会、淡之須町会4会長連名で要望書を提出いたしました。

全国的にも音響施設に優れたかつしかなフオーニーヒルズには、多くのお客様が、音楽や芸術鑑賞に来られます。葛飾区の玄関口である青砥駅前広場を是非明るくできないか。出来ればタカラトミー、京成電鉄、葛飾区連携でイメージアップをして子ども達にも住んでいて自慢できる活気のあるまちづくりをお願いいたしました。

お蔭様で令和5年7月20日には青砥駅の看板が全て「人生ゲームのまち青砥駅」となり、令和7年3月26日には、駅前広場が人生ゲーム色に見事改装されました。私たちがとつてまはやく誇らしい瞬間が訪れました。駅前広場がきっかけで、共同通信社主催の全国地域再生大賞に東京新聞社推薦でノミネートされました。大賞発表は、今春との事ですが、選考対象になるだけでも名誉なことです。

これからも商店会、町会で、子ども達も自慢できる街づくりを目指していきます。



第47回
青戸地区なかよし運動会開催
青少年育成青戸地区委員会 中野 賀章

今年度も青戸中学校の校庭をお借りして、10月19日になかよし運動会を開催いたしました。当日朝の天候は晴れ。その後、時間が経つにつれて曇りとなり、時折雨が降ることもありましたが、無事に全ての種目を行うことができました。

開会に当たっては、ジュニアリーダーの皆さんに、子供会の子とも達とフリー参加の子とも達を誘導してもらい、円滑に開会式をスタートすることができました。最初の種目である青戸地区ロードレース大会には、小学生から一般の方まで計213名の方が参加し、真剣な眼差しで走る姿に、応援している方々が深い感銘を受けているように感じました。その後の競技においては、子供会対抗リレーや、未就学児の宝さがしを含めた10種目を行いました。どの種目においても、子どもから大人まで笑顔で参加されている姿をみて大変嬉しく思いました。お昼休みには3団体の方にダンスや吹奏楽で運動会を更に盛り上げていただきました。

また昨年度までは、保険代として参加費をいただいておりますが、今年度は青戸自治町会連合会からの助成により、参加費は無料で開催することができました。

なかよし運動会は多くの方の協力で成り立っております。参加してくれた皆様、開催運営に協力して下さいました方々、応援してくれた皆様に感謝しております。青戸地区委員会では、これからも関係する方々との連携を深め、子ども達の健全育成に取り組んでまいります。



白鳥東町会 「敬老祝いの会」

白鳥東町会では、9月13日(土)にテクノプラザかつしかにて「敬老祝いの会」を開催しました。

以前は行政と連携して、町会内にお住まいの75歳以上の方へ町会役員がお祝いの品をお届けしていましたが、昨年度より「敬老祝いの会」を参加型のお祝いイベントとして開催しています。当日ご来場いただいた方へ町会のタオルを差し上げました。75歳以上の白鳥東町会員の方には「敬老のお祝い品」を贈呈しています。

テクノプラザの2階大ホールを二つに分け、一方は軽食が取れる休憩スペース、もう一方をイベントスペースとしました。イベントでは健美操・寄席・詩吟・笑いヨガ・歌謡ショーと続き、最後は輪踊りで締めくくりました。休憩スペースでは飲み物やお菓子を用意しました。開催は昼食時間帯を含むためお弁当も用意しましたが、こちらは数に限りがあり先着順でのお渡しとなりました。

当日は町会以外の方も含め128名の参加者があり、体を動かしたり、笑ったり、踊ったり、たまには休憩したりと閉会まで思い思いに過ごされました。楽しいひとときとなりましたなら幸いです。

なお開催にあたり、会場に足を運べない方が多くいらっしゃることは承知しておりますが、個人情報保護法改正以降は対象の方へ戸別訪問が難しい状況となっており、お祝いイベントを開催するという選択に至っております。今後もしもいろいろと模索しながら、より多くの方と敬老のお祝いが出るよう心掛けたいと考えております。



本田消防団第十二分団「夏の放水体験学習」「ポンプ操法公開訓練」 本田消防団第十二分団長 山口洋一

本田消防団第十二分団は、青戸地区を担当している消防団です。

令和7年8月30日に、地域の子どもの思い出づくりと、少しでも防災教育・意識を高める一環として、「夏の放水体験学習」という分団独自イベントを開催しました。管轄している町会の掲示板を利用したり、小学校PTA等のご協力で開催を周知して、延べ150人以上の方々に参加していただきました。

夏らしい青空のもと、目をキラキラさせながら放水をしている子ども達を見て、開催の成功を実感しました。今後も楽しい防災を推進します。



「夏の放水体験学習」と同時開催した、公開訓練。

私たち、十二分団は、16個分団ある中で、放水を競う大会で48年ぶりに優勝を果たし、東京都大会出場の権利を得ました。長い訓練期間で、地域の方々にはご迷惑をおかけしたと思いますが、大きなトラブルも無く、無事大会を終えることができ、本当に感謝しています。



我が家の天使

我が家には、三人の愛しい天使たちがいる。

11歳の長女は小学5年生。少し照れ屋だが、水泳が大好きで、子供会のイベントには積極的に参加するしつかり者だ。その責任感の強さは、親として誇らしい。

9歳の長男は小学3年生。空手で心身を鍛えつつ、テレビゲームの世界に夢中な一面も持つ。集中する彼の横顔には、いつも真剣さが宿っている。

そして、3歳の次女は幼稚園の年少さん。習い事はまだないが、活発さは誰にも負けない。姉と兄のことが大好きで、いつも二人の後を追いかけて、笑顔と笑い声を振りまくムードメーカーだ。

個性豊かな三人の天使たち。時にはケンカもするけれど、最後はやっぱり仲良し。

そんな日々の小さな出来事一つ一つが、私たち家族の心を温かい光で満たしてくる。

これからも、彼らの健やかな成長を、一番近くで見守っていききたい。



編集後記

12月5日(金)午後7時から「おあしす」の編集会議が青戸地区センター会議室で開かれました。部員が持ち寄った記事の内容を全員で気が付いた点や意見をそれぞれ出し合い紙面づくりを終えました。

少子高齢化が進む現代社会の課題に取り組んでいる「アイリスほほえみの会」の青戸地区福祉活動委員会の活動、白鳥東町会の「敬老祝いの会」や青戸中学校の吹奏楽部の演奏活動取材。葛飾区の玄関口である青砥駅前広場に人生ゲームのデザインを採用し「人生ゲームのまち青砥駅」として生まれ変わった経緯を寄せて頂きました。

青戸地区センターまつりでは2日とも晴天に恵まれ盛大に開催され、「本田消防団第十二分団」では、日々生活していく中でいざという時に身の安全を確保する為に必要な活動の取組を紹介して頂きました。また、地域の我が家の天使の仲の良い三人きょうだいの写真をお寄せいただきました。永年、地域の為に獅子奮迅されてこられた福田雅様が瑞宝双光章を授賞されました。おめでとうございます。盛沢山の記事の割り付けに部員全員が関連に意見を出し合い予定時間を過ぎ会場を後にした時丁度満月に頭上にひかり輝き微笑みかけてくれているように感じ帰途につきました。

広報部 山田安孝